

平成22年度武蔵野市立第三小学校 学校評価報告書
校長 荒木 俊夫

評価→A：十分に達成されている B：概ね達成されている C：達成がやや不十分である D：達成が不十分である

項目	重点目標	取組状況・成果・課題	評価	これからと来年度に向けての改善策・対応策	学校関係者評価における意見
教育活動	確かな学力の向上を推進し、学力調査では市の平均を上回ることを目指す。	都の研究指定を受け、学力向上に取り組み、算数では中位層での学力向上が見られ、市の学力調査で平均を上回ることができた。	(A)	指導法の改善、教材の工夫等を通して、授業の充実を図るとともに、今後は学習支援教室のより一層の充実を図る。特に下位層の児童の学力向上を重点とした取組を実施していく。	基礎学力の充実は重要。特に学習支援教室の充実には取り組んで欲しい。 読書活動の充実を図って欲しい。
	少人数習熟度別指導を取り入れ、指導法の一層の改善を図る。	算数では指導法の改善が進んだが、国語の習熟度別少人数指導は十分とはいえない。	(B)	国語については、どの学習場面に習熟度別少人数指導が効果的かを研究し、指導法の改善を図る。	道徳については机上の学習だけでなく、地域の人との交流を通して挨拶等を身につけるようにしていくことが効果的だと考える。
	道徳の授業を検証し、教員が相互に高め合い、児童の道徳的実践力を高める。	時数にゆとりがなく、教員同士が互いに高めあう取組が十分に実施できなかった。	(C)	年間指導計画の見直しを図り、計画に沿って指導する。お互いに検証し合い道徳の授業を充実させる。	体力は心配である。体力向上を充実して欲しい。
	日常的な体力の向上の取り組みを推進する。	体育朝会が天候の関係で十分実施できなかった。	(C)	体育朝会とともに、休み時間を活用し主体的に運動に取り組めるようにする。	
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習支援教室は、来年度から全学年参加とする。 ・道徳の指導計画を見直し、体験活動を充実させていく。 ・持久走や縄跳びのカードを活用して、日常的に体力向上を図ることのできる取り組みを行う。 					
生活指導	人権教育を推進し重点目標として「思いやりのある子ども」の育成を図る。	全教育活動を通しての、意図的、計画的な人権教育が十分行われず、思いやりの心の育成に時間がとれていない。	(B)	人権教育全体計画に基づき、教員がどの教科のどの単元で何を指導するかを指導計画で明らかにする。	思いやりの心を育てるために、動植物等の生命を育てる活動、障害者や高齢者との交流活動を行う。
	いじめ等を早期発見し、指導する。担任、養護教諭等に相談できるようにする。発生を確認した場合にはすぐに適切な指導を行い、解決を図る。	いじめの実態調査を行い、早期発見に努めた。調査結果を教職員で共有することで、学校全体で子どもを見ていく体制作りが進んでいる。	(B)	指導については担任任せにせず、校内研修の機会を設け、より適正な対応や指導ができるようにしていく。	いじめは早期の把握が大切である。 いじめは卑怯者のすること、みんながいじめをするのは卑怯者と分かることが一番よい。
	自主的自律的な生活態度、生活習慣を身につけさせる。家庭と連携して、挨拶が出来る、きまりが守れるようにするとともに、遅刻を0にする。	武三小ハンドブックを改訂し、特別活動の指導を充実させ自主的自律的な生活態度を育成した。家庭との連携が十分でなく遅刻を0にするまでには至っていない。	(B)	家庭との連携を図るために、学校便り、学年通信等で保護者に指導していることを知らせていく。、学校の方針を説明し、理解と協力を得られるようにし、共に取り組んでいく。	縦割り活動を充実し、特に中高学年にリーダーシップを育成することで自主性・自律性を高めていく。
<p>《学校関係者評価を受けての学校の改善方針》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いじめの早期発見、早期対応のために年3回のアンケートを実施していく。 ・地区班活動・落ち葉集めなどの縦割り活動の充実を図っていく。 					

項目	重点目標	取組状況・成果・課題 (12月15日までの)	暫定評価	これからと来年度に向けての改善策・対応策	学校関係者評価における意見
学校運営	都の研究校としての研究をまとめ、成果を発表するとともに、研究を積み重ね、授業を一層充実させる。	都の研究については研究協議会も成功させ、大きな成果を上げることができた。今後は研究の成果を活かし授業改善を一層進めていく。	(B)	特に、国語の習熟度別少人数指導を充実させる。補充的な学習に力を入れ、すべての児童が成長できる体制を充実させる。	熱心に努力しているように感じる。
	学校文集第二号を発行し、言語活動の充実を図る。	年度末の発行に向けて、順調に準備が進められている。	(B)	3月上旬に完成予定。その後に活用を図っていく。来年度も第3号を計画的に発行する。	学校文集は素晴らしい取り組みである。
	学校行事を通して、児童の心身の成長を支援する。	各行事のアンケート等から保護者等にも感じられる児童の成長が多く見られた。	(A)	今後も行事を充実させ、望ましい集団を育成し、児童の心身の成長を図る。	遠足は工場見学ばかりでなく、自然の中で情操や感性を育てて欲しい。
	学習支援教室を毎週金曜日及び第二、四土曜日に実施する。これまでの学習指導員に加え、教員も指導に参加し、学習指導の一層の充実を図る。	学習支援教室(金曜、土曜、夏季)に参加した児童は、教員も学習指導員も熱心に指導し、学力の向上が見られた。理解が十分でないが学習支援教室に参加していない児童をどのように参加させるかが課題である。	(A)	土曜や夏季の学習支援教室は習い事の関係等があり、参加が少ない。学習支援教室の成果を発信し、特に支援が必要な児童については、個別に参加を呼びかけると共に、保護者の理解を得る。	三小の子は芸術や音楽、文芸で活躍している。スポーツも楽しい、おもしろいと感じられるようお願いする。 教員の休日出勤などの努力が見られる。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方針》 ・学校文集については、今後内容の充実を図っていく。 ・遠足や宿泊学習において全学年で自然体験を実施して、子どもたちに自然に対す畏敬の念を育てていく。				
家庭・地域との連携	保護者、地域、同窓会と連携し開校80周年記念行事を成功させ「善い子が育つ善い第三小学校」を創る。	12月4日の記念行事は、各方面との連携もとれ、充実した記念行事とすることができた。児童が成長している様子を誉めていただいた。	(A)	今回の記念行事で作ることができた各方面との連携を今後一層強化し、「善い子が育つ善い第三小学校」をさらに発展させることが重要である。	80周年行事に参加したが、学校も保護者や地域を育てる努力をしていることを実感できた。
	HPの更新や学期に2回以上学級通信を発行し、積極的に意思の疎通を図る。保護者がいつでも相談できる雰囲気づくりに努める。	HPの更新は概ね予定通りに行うことができた。学級通信は学期2回以上発行できた学級は15学級中4学級しかなく、学校からの発信の弱さが目立った。	(C)	学級通信の発行は、確実にを行うよう教員に指導する。また、HPに学年のページをつくる。その上で保護者がいつでも相談できる雰囲気作りをより一層進めていく。	学級通信は親も期待している。年何回と決めるのではなく、小さなものでもよいことにはどうか。 教員が地域行事に関心を持ち、特に高学年児童の参加を積極的に促していく。
	子どもたちが地域行事等に進んで参加できるようにする。	ジャンボリー、三小カーニバル、落書き消去活動等、児童は地域行事に参加するようになった。	(B)	児童と教員の参加が十分ではない。特に高学年の児童の参加が増えるようにするとともに、教員の参加を増やすように取り組んでいく。	今後とも、学校はPTAや地域を育て、PTAや地域は学校を育てていく仕組みが必要だと思う。
	《学校関係者評価を受けての学校の改善方針》 ・保護者や地域からの協力を求めるだけでなく、地域行事への参加も含め、学校が保護者や地域に役立てる取り組みを考えていく。 ・学級通信は、学期に2回以上発行する。				